

——財界とアメリカにモノがイえる党——

ご町内の皆さん、日本共産党の宣伝隊です。

この場から共産党の政策をうったえます。ご協力をお願いします。民主党政権になってから九ヶ月がたちました。最初の期待から不安に、そして今では失望と怒りへと変わっています。

原因は鳩山首相の個人的な性格もあります。しかし、根底には「財界とアメリカにモノがイえない政治」というゆがみがあります。このような政治を続けていいのか。これが今度の参院選挙で問われています。

世界経済危機のもとで日本経済は世界でもっとも激しい落ち込みを経験しました。その原因は、**海外進出をすすめてきた大企業が、需要の激減の「調整弁」として日本の労働者や下請けを犠牲にした**からです。そのもとで一握りの大企業は大もうけをあげています。この仕組みをおもとから変えましょう。労働者派遣法の抜本改正で、「雇用は正社員が当たり前の社会」をつくりましょう。長時間労働・過密労働を法律で規制して「過労死」をなくしましょう。親企業と中小企業との公正な取引のルールを作りましょう。

日本共産党はこの立場から「派遣切り」問題では、日本経団連やトヨタなどと直談判をし、国会でも企業名をあげて無法をただしてきました。

こういうことは、企業献金をもらっている政党ではできません。**企業献金を一円も受け取らない日本共産党**だからできることです。

みなさん、日本共産党へのご支援をよろしく願います。**埼玉では共産党の伊藤岳**が県内の中小業者や農協、医師会などと懇談し、要望を伺う先頭に立っています。

さて、日本共産党の志位委員長は先般、はじめてアメリカを訪問しました。「被爆国日本」の国民が願う「核兵器のない世界」を国際社会に訴えること、また「普天間基地は無条件撤去しかない」事を訴えるためです。沖縄県民や国民の声を直接米国に伝えました。アメリカ側とは、立場は違っても意見交換は重要という点で一致しました。

本来は日本の首相がするべき事ではないでしょうか。鳩山首相は同じ時期、沖縄を訪問し、「県内移設」の方針を伝え、激しい批判にさらされました。首相は沖縄に行つて県民に負担を強いるのではなく、アメリカに行つて基地撤去の交渉をすべきではなかったでしょうか。

日本共産党は、**相手がアメリカでも財界でも堂々と言つべきことはいえる**ただ一つの政党です。しかもけんか腰ではなく、立場の違う相手でも耳を傾けざるを得ないように事実と道理にたつて相手に伝える。こういう姿勢で実際に行動しているのが日本共産党です。

みなさん、民主党も自民党も公明党も、あれこれの「新党」も、この仕事ができません。

日本共産党を大きく躍進させて下さい。埼玉では伊藤岳が**反核平和運動**の先頭にたっています。伊藤岳を**ぜひともご支援**下さい。どうぞよろしく願います。